中核市となり、八戸圏域連携中枢都市としての取り組み

川口アナウンサー　平成29年1月1日に中核市へ移行しました。市保健所を設置することになりましたね。

小林市長　中核市への移行では、青森県から約2、000の事務権限の移譲が行われましたが、中でもその半数が保健所関連の業務であり、保健所に係る移譲事務は、中核市移行の中で最も大きな比重を占めるものです。

　当市がこれまで推進してきた、健康相談、保健指導、健康診査等のサービスに加え、これまで県保健所が行ってきた感染症対策や、食品衛生等の業務を、より市民に身近な市が直接行うことで、市民の健康づくりや安全・安心な暮らしの実現を一体的に推進することができると考えています。

　中核市移行にあたっては、比較的短い期間ではありましたが、県から移譲される事務について、円滑かつ安定した処理体制を確保するため、入念に準備を行いました。

　県の協力を得て、専門職の実地研修を実施したほか、実務経験のある県の専門職の市への派遣や、県との人事交流を実施しています。また、大規模な食中毒や新型感染症が発生した場合等に備え、県三戸地方保健所の職員を市職員に併任し、必要に応じて支援していただくこととなっています。

　当面は県の協力もいただきながら業務を行っていきますが、将来的には十分県と連携しつつ、中核市として自立した業務の執行体制の構築に努めていきたいと考えています。

　なお、現在、保健所施設は、市庁本庁舎内に暫定的に設置していますが、田向地区への建設を予定している八戸市総合保健センターが整備されたのちには、同センター内に移転する計画となっています。

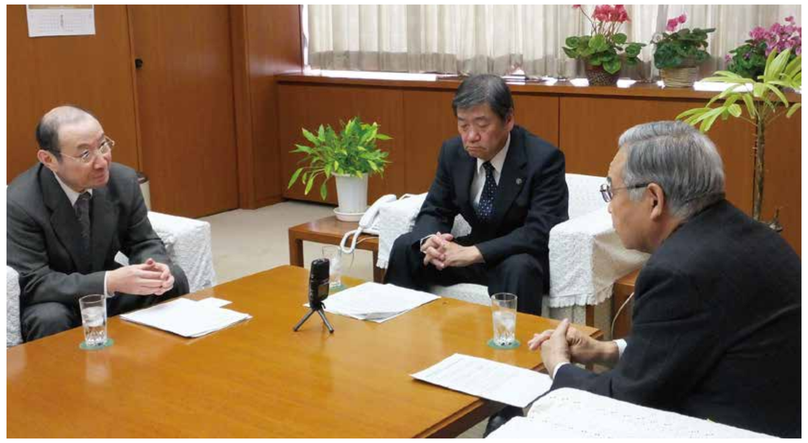
川口アナウンサー　八戸圏域連携中枢都市として取り組みを教えていただけますか?

小林市長　当市では、中核市移行を見据え、近隣7町村（三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）とともに連携中枢都市圏の形成に向けた取り組みを進めてきたところです。

　本年1月1日に当市が中核市へ移行したことにより、1月4日に開催した中核市移行式に引き続き、連携中枢都市宣言を行いました。

　連携中枢都市圏は、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により、「圏域全体の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」、「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成するものです。

　現在、連携中枢都市圏の形成に向けて、8市町村間における具体的な連携施策等に関する協議や、圏域8市町村の有識者等で構成する「八戸圏域連携中枢都市圏ビジョン懇談会」



の開催により、八戸圏域連携中枢都市圏ビジョンの策定を進めています。（3月22日協約締結）

　そのビジョンに掲げている具体的取組は64事業となっており、医療関係の具体的な取組としては、

・ドクターカー運行事業
・高度医療従事者育成事業
・救急・母子周産期医療に関する医療人材育成事業
・医師派遣事業

等で、市民病院を中心とした事業となっています。

　当市としては、近隣町村と緊密な連携を図りながら具体的取組を推進し、活気ある持続的社会の実現に向けて、圏域の中心的役割を担っていきたいと考えています。

川口アナウンサー　総合的な医療・健康対策の拠点として八戸総合保健センターの構想があると伺いました。

　具体的に教えていただけますか?

小林市長　八戸市総合保健センターは、総合的な医療・健康対策のため、関連する機能を集約した拠点として田向地区の市民病院隣接地に整備するもので、医師会・歯科医師会・薬剤師会及び総合健診センターと整備に向けて検討を重ね、平成27年7月に整備指針となる基本構想をまとめました。

　総合保健センターは、市が運営する保健所、診療所、発達支援、介護・認知症予防の4つの機能のほか、関係団体で運営する臨床検査、薬局、健診の3つの機能を持つ総合的な医療健康対策の拠点となるもので、「市民一人ひとりが生涯を通じて心身ともに健康で、生きがいのある生活ができる住みよいまち」をめざし、各種施策を展開することを予定しています。

　現在、市の整備部分について実施設計を進めているところですが、平成32年4月の供用開始を目指して、平成29年度はいよいよ用地取得、建設工事に入っていく予定です。

　今後、関係団体とも緊密に連携しながら着実に整備を進めていくとともに、近隣町村との連携による広域的な活用など、その運営のあり方についても検討していきたいと考えています。

川口アナウンサー　最後にお二人の健康法を教えてください。

小林市長　できるだけ歩くようにしています。スマートフォンに万歩計があり、いつもチェックしているんです。出張で東京に行っているときは1万歩以上歩くこともありますが、庁舎から1歩も出ないこともあるので、注意したいです。

三浦管理者　週5日、朝5時に起き20分程、体を動かしています。具体的には、ウォーキングマシンで歩いているほかに、腹筋を鍛えたりダンベルを持ったりと、筋力を付けています。飲み過ぎた次の日は辛いですね。

インタビュアー

●川口　浩一●
フリーアナウンサー。
担当番組は『川口浩一と木村隆次のいきいき健やかTV』（日曜日6:15～6:30）など

八戸市立市民病院　病院事業管理者

●三浦　一章●
1946年生（70歳）
1971年東北大学医学部医学科卒業。八戸市立市民病院　病院事業管理者

八戸市長

●小林　眞●
1950年生（66歳）
2005年八戸市長選挙に初当選。現在3期目